

レンズを使いつつ光源をLED化 宿泊でき灯台守の気分も

セント・ジョンズポイント灯台 (北アイルランド)

黄色と黒は注意を引き警告を促す色だ。日本でこの配色をもつ航路標識は、危険な岩礁や障害物があることを知らせ、可航水域の方位を知らせる海上の灯標だが、この灯台はのどかな沿岸部に立っている。高さが40㍍もあり迫力満点だ。場所は北アイルランドの東海岸で、首都であるベルファストに近い。ベルファストにはタイタニック号を建造した造船所があり、この灯台はタイタニックのテスト航海でも指標とされた。

夜になり、点灯した姿を見て驚いた。なんと第1等レンズが上下に2つも設置されているのだ=写真右上。点灯していない下段のレンズは予備の副灯として使われていたようだ。レンズ好きにとって垂涎もの光景。

しかし近年、フレネルレンズは廃止されることが多い。この灯台でもレンズの運用について数年に渡り議論が交わされた。回転装置に使われる水銀の有毒性や省エネを理由に、「LED灯器」に変更する計画が持ち上がったのだ。しかし、レンズの歴史的価値や美しさを評価する地元住民や灯台ファンの強い要望を受けて、レンズを使いつつ光源をLED化する仕様に変更された。これによってサーチライトのように光が水平線を走る光景が守られた。「LED灯器」になってしまうと光は点滅するだけで巡回せず、味気ないのだ。この国の人々の灯台への想いの強さを感じた。

灯台守が暮らしていた家はコテージになっており、2泊で約5万円（1泊の予約は不可）、4人まで宿泊することができる。灯台守の気持ちを体感できると人気がある。（つづく）

